

社会教育の充実に向けた今後の連携方策について

～子どもの学校外教育に係る連携のあり方～

(審議のまとめ)

平成23年3月

福岡県社会教育委員の会議

目 次

はじめに

I 審議のまとめについて・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

II 審議テーマの設定について・・・・・・・・・・・・ 1

III 連携に向けた視点

行政へ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

学校へ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 1

地域社会へ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 9

IV 審議の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 5

V 資料編・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 6

VI 福岡県社会教育委員名簿・・・・・・・・・・・・ 4 0

はじめに

近年、少子高齢化や都市化の進行、情報化の進展等社会情勢は急激に変化しています。

このような変化に伴い、人々の生活様式や価値観が多様化するとともに、平成の大合併といわれた市町村合併により、地域社会も大きく様変わりをする中で、社会教育が果たす役割はますます重要になるものと思われまます。とりわけ次代を担う子どもたちへの充実した教育は喫緊の課題であり、就学前における教育や家庭・地域での教育、いわゆる学校外教育の充実が求められるところです。

本県では、このような観点を踏まえ、社会教育行政が中心となって、学校内外における子どもたちの活動に対し、豊富な知識や技術をお持ちの高齢者の方々が指導者として関わる仕組づくりや、異年齢の子どもたちが合宿をしながら生活技術を高めつつ学校へ通う通学合宿等の取組が進められています。さらに、PTA や子ども会育成会、婦人会等社会教育関係団体においても、行政と連携しながら、家庭教育の充実や子どもたちの学校外活動に関わる指導者養成等に取り組み、大きな成果を収めています。

しかし一方で、行政や関係団体のこうした取組に加え、最近では NPO やグループ・サークル、企業等による独自の取組も活発になっています。子どもの教育は社会全体の責務であることや、取組の成果・効果等を考えると、今後は、こういった動きも視野に入れながら、学校外教育に関する取組をさらに大きな面へと広げていく必要があります。

本会議では、そのためのキーワードとなるのが「連携」と捉え、子どもの学校外教育に係る連携のあり方について、2か年をかけて審議しました。

本冊子の作成にあたっては、今後、連携の視点が強く求められる「行政」「学校」「地域社会」の3つの分野に分けて審議内容をまとめるとともに、多様な連携により成功している県内の先行事例等を数多く掲載することとしました。

本まとめの有効な活用を通して連携がさらに広がり、本県の子どもたちの学校外教育の一層の充実が図られますとともに、学校外におけるこういった実践が、学校教育の活性化にもつながっていくことを大いに期待している次第です。

最後に、本まとめの作成にあたり、事例の提供等に御協力をいただきました関係各位に対し、深く感謝いたします。